



# へきけんニュース

ホームページ [http://www.hokkyodai.ac.jp/edu\\_center\\_remoteplace/](http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/)  
メールアドレス [kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp](mailto:kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp)  
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292

## 多様な観点からとらえたへき地教育実習の有用性

へき地・小規模校教育研究センター  
センター長 玉井 康之

へき地教育の特性や良さをどのようにとらえるかについては、様々な研究が進んできています。旧来からへき地のデメリットは指摘されることが多かったのですが、むしろメリットの方が多という研究も進んでいます。デメリットをメリットに変える価値観の転換も求められています。

今回は、釧路校の元へき研センター員で、現在はプログラムコーディネーターをお願いしている津田順二先生に、へき地校実習の有用性について寄稿して頂きました。

これらの観点を参考にすれば、学生のアンケートを作る場合にも参考になると思います。

\*\*\*\*\*

## 教員養成におけるへき地小規模校での実習等の有用性について

地域協働型教員養成プログラムコーディネーター 津田 順二

児童生徒数の減少と相まって北海道におけるへき地小規模校は閉校や統合が進んでいる。しかし、それは、へき地小規模校が減少していることを意味しない。学級数の減少は都市部でも見られ、へき地小規模校では学級の児童生徒数は減少しているもののへき地小規模校が大幅に減少しているのではない。

11学級以下の小学校の割合は全国では44.3%であるに対して、北海道では55.2%であるし、へき地校指定の小学校は学校数の36.1%、中学校では38.2%である。

そうした現状のもとでは、教員養成のカリキュラムにおいてへき地小規模校での指導や教育実践を視野に入れた構成が必要となる。

釧路校ではすでに、入学当初の新入生研修においてへき地校訪問を実施し、限られた学生数ではあるが2年次、3年次の学生でへき地校体験実習を実施している。それを踏まえ、更にへき地小規模校での体験的実習を広げていくべきと考える。その際、へき地小規模校での体験的実習と学びは教師を目指す学生の教員養成上どのような有用性があるか明らかにしていきたい。

### ● 学校運営全体にかかわること

- a-1 教員数が少ないことから、より具体的に学校運営の全体と教職員の役割任務を理解し、実践的に学ぶことができる。
- a-2 学校運営の体制、とりわけ校務分掌を中心とする業務分担の実際とその実働を具体的に学ぶことができる。
- a-3 チームとしての学校組織の、協働の組織としての学校のあり方を具体的に学ぶことができる。
- a-4 少人数組織であることにより、教員相互の助言や提案、課題に対する解決の手立てなどが日常的な教員相互のコミュニケーションによって協議され、推進される協働の気風づくりを学ぶことができる。

## ● 授業運営、学級経営に関すること

- b-1 教員同士の相互交流によって子どもの実態に即した授業設計及び授業づくりの情報交換の重要性を学び、授業設計の方法を実践的に理解することができる。
- b-2 複式授業にあっては授業設計と指導の困難さを伴うが、その検討により授業の構造的な組み立てと児童生徒の一人一人の実態を詳細に把握することにより、緻密な授業設計とその方法を学ぶことができる。
- b-3 学級が少人数であることから、児童・生徒一人一人の生育歴や家庭環境などより深い児童生徒理解の方法を学ぶことができる。
- b-4 学校全体としての研究主題や研究テーマについて、学級での具体的な指導と結びついた実践の在り方を学ぶことができる。
- b-5 へき地小規模校では地域との結びつきが強いことから、学習の定着や家庭での学習習慣など児童生徒を取り巻く環境とその分析などを教師相互の検討によって深めることの形態を実践的に学ぶことができる。
- b-6 教材開発や教材づくりなどで、地域性を加味した教材構成や指導計画の構築を具体的に学ぶことができる。
- b-7 小規模校の共通の課題として社会性の育成がある。その克服として、学校全体を視野に異年齢集団を構成した活動が組み入れられている。その指導を通して、学校全体の教育活動を児童生徒の関係性の構築という観点から実践を学ぶ機会となる。

## ● 地域との連携に関すること

- c-1 地域との結びつきが強いことから、教育実践に関わる家庭・地域の要望や意見を直接に聞く機会を持ち、保護者、地域との具体的な関係の構築について学ぶことができる。
- c-2 へき地小規模校にあっては、学校行事（運動会など）が地域と一体のものとして開催されることが多い。計画準備の段階から地域の方々とともに検討し、実施することを通して連携の在り方を具体的に学ぶことができる。
- c-3 地域の祭礼を始め独自の伝統的な行事が実施される地域も多い。学校としての地域との関わり、その際の学校の役割、児童生徒に対する指導の在り方など地域と学校の連携を学ぶことができる。
- c-4 防災教育、安全教育などにおいては、それぞれ地域によって差異はあるものの地域の環境や状況などを踏まえた指導が必須である。そうした指導の実践的な方法について学ぶことができる。
- c-5 へき地小規模校にあっては、その将来像が検討されることもあろう。そうした検討の実際を通して、地域と学校の結びつきとともに、児童生徒への指導とともに、地域で果たすべき学校の在り方、連携の在り方を深く考え、学びの深化につながるであろう。

## 旭川校における「へき地校体験実習」の実施状況

旭川校へき地教育アドバイザー 田中 和敏

本年度の旭川校のへき地教育体験実習は、上川管内25校の協力を得て、男性20名、女性36名の56名が参加しました。

受入協力校の内訳は、小学校13校、中学校8校、小中併置校3校、義務教育学校1校で、全ての学校がへき地級の指定を受けています。また、中学校2校が全校生徒60名弱である以外は、1学級10名以下の小規模学級、あるいは複式の学級を有する学校でした。

実習の成果としては、授業参観や教壇実習を通して複式授業の難しさ、少人数指導の利点と課題などを実感できたことが挙げられます。さらに、地域の住民と一体となった教育活動を体験することによって、その意義と重要性に気づくこともできていました。



また、へき地教育論などの講義は典型的な事例・理論が中心となる中、実際の学校では、児童・生徒の実態、学校や地域の状況などによって、講義とは異なる面があることや、思い描いていたへき地・小規模・複式校のイメージとの違いを知ることができたのも大きな成果と言えます。

このように、へき地・小規模・複式校への認識を深めることに大きな役割を果たしているへき地校体験実習ですが、本年度は96名の希望者がおり、4割もの学生が参加できない状況でした。

経費や移動手段も関係してきますが、今後は、少しでも多くの学生が参加できる体制づくりが求められるのではないのでしょうか。

## 訪日研修の受入

「ラオス北部地域の教員養成校指導教官の能力強化を通じた複式学級運営改善事業」

期間：平成30年9月24日～10月2日 於：札幌駅前サテライト

東南アジアの後発開発途上国であるラオスに向けた複式教育指導法の指導技術の研修については、受け入れ事業主体の公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、JICA支援により、平成29年から準備を進めてきました。ラオスの行政官や教員養成校で実際に複式学級の学習指導法を教授する教官ら8名が来日し、複数の当センター員を研修講師に札幌駅前サテライトにて研修を行いました。

研修中には、実際のへき地小規模校（石狩市立聚富小中学校/長沼町立長沼舞鶴小学校）にも訪問しました。さらに、視察した学校での実践を踏まえて、算数の低学年と中学年の複式模擬授業を研修生8名が2グループに分かれて学習指導案を作成し、実際の模擬授業を実践しました。研修は短期間でしたが、本学があと3年程研修のサポートと交流を深めていきます。意欲的に学ぶ研修生の姿から、我々も日本の教育をとらえ直す新たな学びの場にしていきます。





地域と未来を開く教師教育

へき地・小規模校教育推進フォーラム

# 地方の教師教育と関係機関の 連携による戦略的教員養成

**日時** 平成30年11月17日（土）  
13:00～17:00

**会場** 北海道教育大学釧路校  
北海道釧路市城山1丁目15-55

**主催** 北海道教育大学

**共催** 北海道教育委員会

今、地方では急激に小規模校化や人材不足が進んでおり、これに対応した教師教育も急務となっています。このような地方での人材養成は、教育委員会・関係機関と大学が連携して戦略的に教員養成を進めることが不可欠となります。本フォーラムでは、地方での新たな人材養成の役割と可能性をとりえていきます。

## プログラム

### 基調講演

## 「地方の人材養成政策と教員養成大学の戦略的課題」

講師 柳澤 好治（文部科学省初等中等教育局教職員課長）

総合司会 浅利 祐一（北海道教育大学釧路校キャンパス長）

挨拶 蛇穴 治夫（北海道教育大学長） / 鈴木 淳（北海道教育庁釧路教育局長）

### シンポジウム

## 「へき地・小規模校を含めた教師教育と教員養成」

司会 玉井 康之（北海道教育大学副学長）

北海道全域を対象とした人材養成とリーダーの役割

パネリスト 北村 善春（北海道立教育研究所長）

新しい時代の学校教育改革とへき地教育の可能性

パネリスト 柿崎 秀顕（全国へき地教育研究連盟会長）

教師教育におけるへき地教育プログラムの可能性-質量のエビデンスの開発

パネリスト 川前 あゆみ（北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター副センター長）

**参加無料**

事前に [crc@j.hokkyodai.ac.jp](mailto:crc@j.hokkyodai.ac.jp) まで  
お申込みください。  
(当日、直接来場も可能です。)

### 後援団体

文部科学省、全国へき地教育研究連盟、北海道へき地・複式教育研究連盟、北海道小学校長会、北海道中学校長会、釧路管内町村教育委員会連絡協議会、釧路市教育委員会、釧路市小中学校長会、釧路校長会

### 事務局主幹

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター  
〒085-8580 北海道釧路市城山1丁目15-55  
Tel:0154-44-3216

### お問合せ

北海道教育大学学務部地域連携推進室（中戸川、堀北）  
〒002-8501 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1-3  
Tel:011-778-0890 e-mail:crc@j.hokkyodai.ac.jp